



2022,03,02

NO. 277

申 35 号

(株)JR東日本ステーションサービス (JESS) へ

3月
2日

2022 年度賃金をはじめとした 総合労働条件の向上を求める

申し入れ

提出!



輸送サービス労組の要求

申し入れ項目

賃金をはじめとする総合労働条件向上を実現する取り組み

実賃金を据下さない
物価上昇1%相当還元する

全社員一律
4,000円の
ペア実施

労働の価値の高まりを
正当に評価・還元する

定期昇給の
完全実施

1. 賃金引き上げにあたっては、2022年4月1日以降のJR東日本輸送サービス労働組合員の基本給を一律4,000円(定期昇給を含まない)引き上げること。
2. 労働者にとっての“働きがい”、“生きがい”、“こころの豊かさ”と安心した生活設計を構築していくために定期昇給を実施すること。なお、その際の昇給係数は「4」とすること。
3. 老朽化している庁舎等により湿度高によるカビの増殖、害虫等の発生が多いことから、組合員・社員の健康維持を目的とした防虫防カビ対策等の労働環境の整備を行うこと。
4. 新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行い、安全・清潔・安心を高め、質の高い輸送サービスを提供するとともに働きがいのある環境を創出していくために、被服の貸与にあたっては中古品とせず個人貸与とし複数枚支給すること。
5. この要求に対する団体交渉を速やかに調整し開催すること。
6. 回答については、2022年3月31日までに行うこと。

働きがいと生きがい、こころの豊かさが実感できる

ベースアップの満額獲得と定期昇給の実施に向けて

組合員と共に全力を尽くします!



申
35
号



(株)JR東日本ステーションサービス (JESS)

2022年度賃金をはじめとした 総合労働条件の向上を求める申し入れ

私たちの要求!



実賃金を低下させない
物価上昇1.1%相当還元する
全社員一律
4,000円の
ベア実施

労働の価値の高まりを
正当に評価・還元する
定期昇給の
完全実施



3月18日
第1回団体交渉にて
趣旨説明を行う!

先の見えないコロナ禍で日々奮闘する、現場の声に基づき「人」への的確な投資を行うことを強く求める!

私たちの主張

- コロナ禍で先の見えない不安の中でも、世の中から必要とされているエッセンシャルワーカーとして安全安定輸送に努め、JR東日本グループの信頼の維持に努力してきた。
- 2022年度の物価上昇予測1.1%に対して組合員の賃金が追いついていない。社会環境の変化に取り残されることのないように「一律4,000円」のベースアップを求める。
- 営業利益▲3億円(2021年度通期予想)であるが、Microsoft365やタブレット導入など費用となる部分に対して果敢に取り組んできた。このように費用であるものの必要な投資として実施してきた経営判断からも、社員に対してのベースアップという『人』への投資ができるはずだ。
- 生産性向上に伴い労働密度が高まり労働は強化されるが、賃金をはじめとした労働環境は向上していない。労働者の我慢で成り立ってはいけない。施策努力分の成果をしっかりと評価したうえで社員に還元するべきだ。
- ある職場では、ゴミ置き場からネズミが入ってきたり、老朽化により寝室にカビが生えている駅もある。労働環境の整備は社員の安全・働きがいと職場の活性化に直結することから適切な改善を求める。

組合からの趣旨説明に対し、**会社**の交渉へ向けた**基本スタンス**が述べられる

- 新型コロナウイルスオミクロン株で感染再拡大の緊張と不安の中、社員の積極的なコロナ対策でクラスターも発生していない。感染防止の中、安全安定輸送に努めていただき冒頭感謝を申し上げる。
- 営業収入は殆どが本体からの受託費であり、大幅なコストダウンに伴う受託契約額の見直しにより減収となった。
- 営業費用については、エルダー出向社員数減はあるものの、新規採用の人件費の大幅増加。タブレット導入やMicrosoft365の使用料、新しい女子寮の借上げがあり、営業利益▲2億3600万(第3四半期決算)となり非常に厳しい状況下にある。
- 人材が私たちの財産である。人に対しても必要な投資は行なっていくが、経費構造は費用の9割が人件費を占めている。長期的な人件費が見込まれるため、賃金の引き上げは極めて慎重に判断しないとイケない。
- 設備は確かに古い箇所はある。一方で駅の設備はJRの設備である。改善に向けて努力をしているが、すぐ「出来る・出来ない」はある。優先順位で出来るところから行なっていく。

働きがいと生きがい、こころの豊かさが実感できる

ベースアップの満額獲得と定期昇給の実施、

職場環境の改善に向けて組合員と共に全力を尽くします!



申
35
号



(株)JR東日本ステーションサービス (JESS)

2022年度賃金をはじめとした 総合労働条件の向上を求める申し入れ

3月25日 第2回団体交渉を行う!

9時56分~第2回交渉にて**会社回答**が示される!

要求との隔たりがあり満足した解答ではない!

持ち帰り組織内の議論を経て回答することを通告!!

定昇「4」実現! ベアゼロ!



私たちの主張

- ベースアップは物価上昇分を考慮した生活維持向上分であり誰にも等しくあるべきもの。定期昇給は1年間の労働によって向上した能力に対する評価の対価である。
- 駅設備によっては事務所に女性トイレがない駅もある。安全衛生規則628条1項に「男性用と女性用に区別すること」とある。法律に基づいた改善を求める
- 人事考課による昇給に「お前は気に入らないから昇格させない」などの差別考課が行われている。このような差別はあってはならない。現場の状況を把握し是正すること。
- 被服はしっかり新品なものを個人貸与することは衛生面も含めて重要なことである。問題があるものは交換など対応すること。

会社の主張

- ベースアップと定期昇給について、貴組合の考えは重く受け止めている。ベースアップを実施する要素である。また、定昇については、制度として確立している。このような社会状況の中で奮闘していることを正しく評価している。しかし、ベースアップと定期昇給とその係数は、長期的な人件費に影響する。様々な環境をふまえて総合して慎重に判断する。
- JR東日本の設備内で業務している。老朽化などの問題は設備改良がいいのか、改修がいいのか構造など含めて優先的に出来るところから改善していく。
- 大きな箇所から女性設備の設置をしているが、設備上で設置困難な箇所が残っている。出来るところ・必要などから女性社員含めてJR東日本と協議しながら働きやすい職場づくりを目指していく。
- 差別考課の実態は発生していない認識だ。しかし、一歩間違えると発生しかねないため引き続き管理者に徹底していく。公平公正な評価を行っていく。
- 制服は業者のレンタルとなり、私たちの所有物ではない。エコロジーとコストダウンの観点から、回収してきっちりと検品した上でしっかりとした品質で再利用を引き続き行なっていく。

組合員の負託に応えるために声を上げ続けます!